

## 農業集落の類型区分と経営構造

東 一洋(長崎県総合農林試験場)

Kazuhiro HIGASHI: Farming Structure  
and Classified Rural Communities

### 1. はじめに

地域農業の支援・誘導に当たっては、地域課題の整理、農業集落の類型化、モデル集落の選定等の過程が重要視される。このため、普及現場等では普遍的な集落の類型化手法の確立が求められている。このようなことから、先に、農業集落カードの専・兼業別農家構成をもとに「修正ウィーバー法」を援用した農業集落の類型区分を提示した(九州農業研究, 第52号)。本報では、これらの集落類型と経営構造の関係を検討した。なお、集落類型は「農業本業型」、「本業・Ⅱ兼分化型」、「兼業型」、「兼業特化型」、「高齢・婦人専従型」の5つである。

### 2. 兼業化の程度と種類

「農業本業型」はⅠ種兼業を主体に兼業農家率は52.9%、兼業の種類では恒常的勤務55.7%、日雇・臨時雇34.9%、自営兼業9.4%である。他の集落類型に比べて、相対的に日雇・臨時雇の比率が高い。「本業・Ⅱ兼分化型」は兼業農家率70.4%で、Ⅰ種、Ⅱ種兼業の比率はほぼ等しく、恒常的勤務の比率は「農業本業型」より高い。「兼業型」はⅡ種兼業農家が主体で兼業農家率82.7%、恒常的勤務が61.7%を占める。「兼業特化型」は兼業農家率89.8%で、恒常的勤務61.0%、自営兼業は20.4%である。「高齢・婦人専従型」は兼業農家率41.5%と類型間では最も低率で、自営兼業が21.1%を占める。つまり、兼業化については「農業本業型」の集落でも兼業農家率が50%以上を超え、類型間には明らかな差異が認められた。また、兼業農家率の高い類型では恒常的勤務、自営兼業が、低い類型では日雇・臨時雇が相対的に高率になることが明らかになった。なお、自営兼業の約4割が漁業によるもので、半島・島しょ部の多い地域性を反映している。

### 3. 農業就業者の高年齢化、女性化

「農業本業型」は40~59歳が45.7%を占め、16~29歳13.5%、65歳以上は14.7%である。他の類型に比べ、若年層が分厚く、男子の比率が高い。「本業・Ⅱ兼分化型」は「農業本業型」に比較して65歳以上がやや高率となり、16~29歳は4.1ポイント低下し、女性の比率が高い。「兼業型」は65歳以上が24.0%と高年齢層の割合が高く、女性の比率は59%と高い。「兼業特化型」は65歳以上が30.8%を、女性の比率は68.4%を占める。「高齢・婦人専従型」は65歳以上が48.0%を占める。つまり、農業就業者の高年齢化、女性化については「兼業型」、「兼業特化型」、「高齢・婦人専従型」の集落で特に顕著であり、類型間には序列性が認められた。

### 4. 農業労働力の保有状態

「農業本業型」は中核的農家(60歳未満の男子専従者

がいる農家)が70.2%を占め、経営革新に対応できる個別農家の密度が高いといえる。「本業・Ⅱ兼分化型」では中核的農家が49.2%に低下し、専従者のいない農家が26.8%、専従者は60歳以上の男子高齢者又は女子のみが23.9%を占める。「兼業型」は専従者なしが44.0%に及び、専従者は男子高齢者又は女性だけの農家26.7%を占める。「兼業特化型」は専従者なしの農家69.4%に達し、専従者は女性だけの農家等が20.0%を占め、中核的農家は10.5%にすぎない。「高齢・婦人専従型」は専従者なしの農家が74.9%、専従者は男子高齢者又は女子だけの農家が19.3%を占める。つまり、農業労働力の保有状態については、「兼業特化型」、「高齢・婦人専従型」の集落で専従者なしの農家が50%を超える等、類型間には著しい差異が認められた。

### 5. 経営組織の分化

集落類型毎の中核的農家率を「多」、「中」、「少」、「無」に区分した上で、経営組織について考察した。「農業本業型」は中核的農家「多」の集落が多く、野菜(ばれいしょを含む)、工芸作物、果樹、酪農・肉用牛、施設園芸等を主位作物とする単一及び準単一経営型の集落が多い。「本業・Ⅱ兼分化型」で中核的農家率「多」、「中」に区分される集落では、米・麦、野菜、果樹、酪農・肉用牛等を主位作物とする集落の比率が高い。経営組織は中核的農家率「多」では単一経営型が、「中」では複合経営型の集落が多い。「兼業型」は中核的農家率「中」の集落が66.0%を占め、米・麦、果樹等の単一及び複合経営型の集落が多い。「兼業特化型」では中核的農家率「少」の集落が多く、経営組織は米・麦又は野菜の単一経営型が多い。中核的農家率「無」では、作物が多様で、単一及び複合経営型が多い。つまり、中核的農家が多く存在する「農業本業型」等の集落では、集約的な作物の単一経営型が相対的に多く、一方、中核的農家の少ない「兼業特化型」等の集落では米・麦等の単一経営型、複合経営型が多くなることが明らかになった。

### 6. おわりに

農業集落の類型区分は、兼業化の程度と種類、農業就業者の高年齢化、女性化、農業労働力の保有状態等の序列性を表しており、経営組織・作物に関する指標を付加していけば一層実用的な類型区分になる。また、類型ごとに代表的な集落の農家意向調査等を実施することによって集落類型間の社会的・経済的構造の違いも把握できると考えられる。